

(1) 水 稲

水稻

作物	農 薬 名	特 性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数		10 a 当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農業使用基準				
ア 畦畔雑草 処理	グラスショット液剤 ビスピリバックナトリウム塩 3.0% ※抑草剤	非ホルモン型の吸収移行性抑草剤である。雑草の草丈を抑えることによって草刈り回数を減少させるものである。根まで枯らさないで畦畔を崩さない。	一年生雑草及び多年生雑草 (雑草の草丈抑制による刈取り軽減)	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	雑草生育初期 (草丈10cm) 及び草刈り後 10～20日の雑草再生期 (ただし収穫前日まで) / 3	同左	300～500ml	—	(通常散布) 10 a 当たり50～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。 (少量散布) 10 a 当たり25リットルの水に溶き、専用ノズルで散布する。	1. ビスピリバックナトリウム塩を含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 低温下では効果の発現が遅れることがある。 6. 展着剤の加用は必要ない。
	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草及び多年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	収穫7日前まで / 2	同左	500～1000ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. 畦畔処理の場合、グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、早めに散布する。 5. 散布直後(1時間程度)の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6. 散布後1～3日で効果が発現し、7～14日で効果が最大となる。 7. 展着剤の加用は必要ない。
	ダイロンゾル DCMU 50.0%	非ホルモン系の吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	雑草発生前～生育初期 / 1	同左	200～250ml	—	10 a 当たり100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. DCMUを含む農薬の総使用回数は1回以内とする。 2. 茎葉処理除草剤(ザクサ液剤)と混用することにより、効果向上が認められるので、茎葉処理除草剤との混用で使用する。 3. 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。 4. 砂質で水はけの良い場所や雨の多い時期には、薬剤が土中深く浸透して有用植物に葉害が生ずる恐れがあるので注意する。
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草及び多年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	収穫7日前まで(雑草生育期:草丈30cm以下) / 2	同左	500～1000ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 一年生雑草でも茎部が木質化している場合には所定範囲の多めの薬量で使用する。多年生雑草では地下茎まで枯死せず再生することがある。 5. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6. 散布後2～5日で効果が発現する。 7. 展着剤の加用は必要ない。
	ブリグロックスL ジクワット 7.0% バラコート 5.0%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。	一年生雑草 多年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	雑草生育期 / 5	同左	600～1000ml 1000～2000ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. 畦畔処理の場合、ジクワット、バラコートを含む農薬の総使用回数はそれぞれ5回以内とする。 2. 散布薬量、散布水量は雑草の大きさによって所定範囲内で加減する。 3. 雑草が乾いてから十分付着するように散布する。 4. 付近の作物にかからないようにする。 5. 展着剤の加用の必要はないが、加用する場合には非イオン系展着剤を使用する。(農業用展着剤の項を参照。)
イ 水田刈跡・耕起前雑草処理	草枯らしMIC サンフーロン液剤 グリホサート イソプロピルアミン塩 41.0%	吸収移行型の非選択除草剤で、ほとんどすべての一年生、越年性、多年性草本及び木本に作用する。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	耕起20～10日前(雑草生育期) / 1	雑草生育期 / 1	250～500ml	—	10 a 当たり50～100リットル(草枯らしMICは100リットル)の水に溶き、噴霧機で散布する。	1. グリホサート関係成分を含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. 散布水量は雑草の大きさによって所定範囲内で加減する。 3. 雑草が大きくなると効果が劣るので、早めに散布する。 4. 付近の作物にかからないようにする。 5. 散布後10日間は耕起、刈払いしない。 6. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 7. 散布後2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。 8. 展着剤の加用は必要ない。
	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草(水田作物)	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	耕起前 / 1	同左	300～500ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、早めに散布する。 5. 散布直後(1時間程度)の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6. 散布後1～3日で効果が発現し、7～14日で効果が最大となる。 7. 展着剤の加用は必要ない。
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	吸収移行型の非選択性除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	耕起15日前まで(雑草生育期) / 1	雑草生育期 / 1	300～500ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数は1回以内とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 4. 一年生雑草でも茎部が木質化している場合には所定範囲の多めの薬量で使用する。多年生雑草では地下茎まで枯死せず再生することがある。 5. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6. 散布後2～5日で効果が発現する。 7. 展着剤の加用は必要ない。
	ブリグロックスL ジクワット 7.0% バラコート 5.0%	非ホルモン型の非選択性接触型の除草剤である。	一年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	秋期稲刈取後または春期水田耕起1か月前～直前まで / 1	同左	800～1000ml	—	10 a 当たり100～150リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. ジクワット、バラコートを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回以内とする。 2. 散布薬量・散布水量は雑草の大きさによって所定範囲内で加減する。 3. 雑草が乾いてから十分付着するように散布する。 4. 付近の作物にかからないようにする。 5. 展着剤の加用の必要はないが、加用する場合には非イオン系展着剤を使用する。(農業用展着剤の項を参照。)

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期/回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農業使用基準				
イ 水田刈跡・ 耕起前雑草 処理	ラウンドアップマックスロード グリホサートカリウム塩 48.0%	吸収移行型の非選択性除 草剤である。	一年生雑草及び多年生雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散 布)	耕起前(雑草生育 期) / 1	同左	200~500ml	-	(通常散布) 10a 当たり 50~100リットルの水に溶き、 噴霧機等で散布する。 (少量散布) 10a 当たり 25~50リットルの水に溶き、 専用ノズルで散布する。	1.グリホサート関係成分を含む農薬の総使用回数は1回(水田刈跡と耕起前は合わせて 1回)とする。 2.散布薬量・散布水量は、雑草の大きさによって所定範囲内で加減する。 3.ススキ、セイタカアワダチソウ、マルバツクサに使用する場合は、所定範囲の多めの薬量を使用す る。 4.雑草が大きくなると効果が劣るので、早めに散布する。 5.多年生雑草に対しては、複数年継続防除が必要。 6.付近の作物にかからないようにする。 7.散布後1時間以内の降雨は効果を減るので、天候をよく見きわめてから散布 する。 8.散布後2~7日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。 9.展着剤の加用は必要ない。
			多年生雑草(水田刈跡)		雑草生育期 / 1	同左	500~1000ml			
			一年生雑草(水田刈跡)				200~500ml			
ウ 移植栽培	ソルネット1キログラム プレチラクロール 4.0%	非ホルモン型の吸収移行 型除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ	土壌処理 (湛水散布)	移植後2~3 日 / 1	植代後~移植前 7日、移植時 (田植同時散 布)または移植 直後~ノビエ1 葉期(ただし移 植後30日まで) / 1	1kg	壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)	湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。	1.プレチラクロールを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.ノビエ1葉期、ホタルイ発生始期までに使用する。 3.散布後3~4日は水深3~5cmを保つ。 4.1キログラム剤の散布上の注意事項を参照。
(ア) 初期 処理剤	パデホープ1キログラム ダイムロン 15.0% プレチラクロール 3.0%	非ホルモン型の吸収移行 性除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ミズガヤツ リ	土壌処理 (湛水散布)	移植後2~3 日 / 1	植代後~移植前 7日または移植 直後~ノビエ1 葉期(ただし移 植後30日まで) / 1	1kg	砂壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)	湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。	1.ダイムロン、プレチラクロールを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1 回、本田では2回)、2回以内とする。 2.ノビエ1葉期、ホタルイ・ミズガヤツリ発生始期までに使用する。 3.散布後3~4日は水深3~5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、極端な浅植、軟弱苗では使用しない。 5.1キログラム剤の散布上の注意事項を参照。
	ユニハープフロアブル プレチラクロール 5.0% ベンゾフェナップ 20.0%	非ホルモン型の吸収移行 性除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、(オモダカ )	土壌処理 (原液湛水散 布)	移植直後~3 日 / 1	植代時~移植7 日前、移植時 (田植同時散 布)または移植 直後~ノビエ1 葉期(ただし移 植後30日まで) / 1	500ml	砂壤土~埴土 (減水深1.5 cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは 本田に入って原液のまま 容器を振って散布する。	1.プレチラクロール、ベンゾフェナップを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.散布後4日間は水深3~5cmを保つ。 3.田植直後からノビエ1葉期までに使用する。 4.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。
(イ) 初期 一 発 処 理	アワードフロアブル イマゾスルフロン 1.7% ダイムロン 27.5% ピリヂカルブ 12.0%	非ホルモン型の吸収移行 性除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、(ヒルムシ ロ)、(セリ)、(藻類)、 (表層はく離)	土壌処理 (原液湛水散 布)	移植後3~5 日 / 1	移植時(田植同 時散布)または 移植直後~ノビ エ1.5葉期まで (ただし移植後 30日まで) / 1	500ml	砂壤土~埴土 早期: (減水深1cm /日以下) 普通期: (減水深1.5 cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは 本田に入って原液のまま 容器を振って散布する。	1.イマゾスルフロン、ダイムロン、ピリヂカルブを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、3回 (育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2.ノビエ1.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 4.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。
	カイリキZジャンボ イプフェンカルバゾン 8.3% テフリルトリオン 8.3% プロピリスルフロン 3.0%	非ホルモン型の吸収移行 性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効 果を示す。	一年生雑草、マツバ、ホ タルイ、ミズガヤツリ、ウ リカワ、ヒルムシロ、セリ カワ、ヒルムシロ、セリ	土壌処理 (湛水散布)	移植後3~1 日 / 1	移植3日~ノビ エ3葉期まで (ただし移植後 30日まで) / 1	小包装10個 (300g)	砂壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)	湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。	1.イプフェンカルバゾン、テフリルトリオン、プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2 回以内とする。 2.ノビエ・ホタルイ・ウリカワは3葉期、ミズガヤツリは草丈15cmまで、モクガキ・クワライ・コキヤ クワは発生始期までに使用する。 3.散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	ガンガンジャンボ ピリミスルファン 2.0% フェノキサスルホン 8.0%	非ホルモン型の吸収移行 性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効 果を示す。	水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、ヒルムシ ロ、(オモダカ)、(クロ グワイ)、セリ、藻類、( コウキヤガラ)	土壌処理 (湛水散布)	移植後3~9 日 / 1	移植後3日~ノ ビエ2.5葉期 (ただし移植後 30日まで) / 1	小包装10個 (250g)	砂壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)	湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。	1.ピリミスルファン、フェノキサスルホンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回以内とす る。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期、ヒルムシロ発生期、セリ再生前~始、 藻類発生前までに使用する。 3.散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	ガンガン豆つぶ250 ピリミスルファン 2.0% フェノキサスルホン 8.0%	非ホルモン型の吸収移行 性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効 果を示す。	水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、ヒルムシ ロ、(オモダカ)、(クロ グワイ)、セリ、(コウキ ヤガラ)	土壌処理 (湛水散布)	移植後3~9 日 / 1	移植後3日~ノ ビエ2.5葉期 (ただし移植後 30日まで) / 1	250g	砂壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)	湛水して、手まきまたは 散粒機等で均一に散布す る。	1.ピリミスルファン、フェノキサスルホンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回以内とす る。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期、ヒルムシロ発生期、セリ再生前~始、 藻類発生前までに使用する。 3.散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 4.豆つぶ剤の散布上の注意事項を参照。
	クサトリエースLジャンボ カフェンストロール 7.0% ダイムロン 15.0% ベンスルフロンメチル 1.7%	非ホルモン型の吸収移行 型除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、(ヒルムシ ロ)、(セリ)、(オモダ カ)、(クログワイ)、( 藻類)、(表層はく離)	土壌処理 (湛水散布)	移植後3~7 日 / 1	移植後3日~ノ ビエ2葉期(た だし移植後30日 まで) / 1	小包装10個 (300g)	早期: 埴土~埴土 (減水深1cm /日以下) 普通期: 壤土~埴土 (減水深1.5 cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは 本田に入って小包装のま ま10a当たり10個の割合 で均等に投げ入れる。	1.カフェンストロール、ダイムロン、ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、3 回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2.ノビエ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3~4日は水深3~5cmを保つ。 4.カフェンストロールを含む剤は補植苗での葉害が著しいので、補植後5日はあ げる。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期/回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農業使用基準				
(イ) 初期一発処理	<b>クラッシュEXジャンボ</b> イマズスルフロン 1.8% カフェンストロール 4.2% ダイムロン 20.0%	非ホルモン型の吸収移行型除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(藻類)(表層はく離)	土壌処理(湛水散布)	移植後3～7日/1	移植後3～10日(ノビエ2葉期まで)/1	小包装10個(500g)	壤土～埴土(減水深1.5cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.イマズスルフロン、カフェンストロール、ダイムロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、1回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)以内とする。 2.ビエ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日は水深3～5cmを保つ。 4.カフェンストロールを含む剤は補植苗での葉害が著しいので、補植後5日はあける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ゴウワンDLジャンボ</b> オキサジクロメホン 0.86% クロメブロップ 4.3% ダイムロン 6.4% プロモブチド 8.6% ペンシルフロメチル 0.73%	非ホルモン型・ホルモン型混合の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性アゼナ、ホタルイにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(藻類)(表層はく離)	土壌処理(湛水散布)	移植直後～7日/1	移植直後～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)/1	小包装10個	砂壤土～埴土	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.オキサジクロメホン、クロメブロップ、ダイムロン、プロモブチド、ペンシルフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回、2回以内とする。 2.ビエ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>サスケーラジカルジャンボ</b> カフェンストロール 10.5% シクロスルファミロン 2.25% ダイムロン 22.5% ベンゾピシクロン 10.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(クログワイ)、(オモダカ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理(湛水散布)	移植後3～7日/1	移植後3日～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)/1	小包装10個	砂壤土～埴土	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.カフェンストロール、シクロスルファミロン、ダイムロン、ベンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2.ビエ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>シーゼットフロアブル</b> ビリブチカルブ 5.7% プロモブチド 10.0% ベンゾフェナップ 12.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性アゼナ、ホタルイにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)	土壌処理(原液湛水散布)	移植直後～5日/1	移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ1.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	0.8～1リットル	砂壤土～埴土(減水深2cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。	1.ビリブチカルブ、プロモブチド、ベンゾフェナップを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ビエ1.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日は水深3～5cmを保つ。 4.代かきから田植までの期間が長い場合は、早めに散布する。 5.水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水面全面に拡散させる。処理後湛水深3～5cmに達した時に必ず水を止め、田面水があふれないように注意する。 6.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ネビロソーラジカルジャンボ</b> カフェンストロール 15.0% シクロスルファミロン 3.0% ダイムロン 30.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(オモダカ)、(クログワイ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理(湛水散布)	移植後3～7日/1	移植後3日～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)/1	小包装10個	早期： 埴土～埴土(減水深1cm/日以下) 普通期： 砂壤土～埴土(減水深1.5cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.カフェンストロール、シクロスルファミロン、ダイムロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)以内とする。 2.ビエ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日は水深3～5cmを保つ。 4.カフェンストロールを含む剤は補植苗での葉害が著しいので、補植後5日はあける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ミスターホームランLジャンボ</b> オキサジクロメホン 1.2% クロメブロップ 7.0% ダイムロン 9.0% ペンシルフロメチル 1.02%	非ホルモン型・ホルモン型混合の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性アゼナ、ホタルイにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(藻類)(表層はく離)	土壌処理(湛水散布)	移植後3～7日/1	移植直後～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで)/1	小包装10個	砂壤土～埴土	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.オキサジクロメホン、クロメブロップ、ダイムロン、ペンシルフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2.ビエ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
(ウ) 初・中期一発処理剤	<b>アトラスジャンボMXセカンドショットSジャンボMX</b> アジムスルフロン 0.36% ペノキスラム 0.36% メソトリオン 2.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイ、コナギに効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、オモダカ、ヘラオモダカ、クログワイ、セリ、シズイ、コウキヤガラ	土壌処理(湛水散布)	移植後20日～ノビエ3葉期(ただし、収穫45日前まで)/1	移植後14日～ノビエ3.5葉期(ただし、収穫45日前まで)/1	小包装20個(500g)	砂壤土～埴土(減水深2cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり20個の割合で均等に投げ入れる。	1.アジムスルフロン、ペノキスラム、メソトリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回、2回以内とする。 2.ビエ3葉期、ホタルイ草丈10cmまで、ウリカワ4葉期まで、ミズガヤツリ草丈15cmまで、ヒルムシロ発生盛期まで、オモダカ矢じり葉3葉期まで、クログワイ・コウキヤガラは草丈20cmまでに使用する。 3.散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>イッポンD1キロ粒剤51</b> ダイムロン 4.0% ピラクロニル 2.0% プロモブチド 6.0% ペンシルフロメチル 0.51%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(クログワイ)、(オモダカ)、(ヒルムシロ)、(セリ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理(田植同時散布機で施用または湛水散布)	移植時(田植同時散布)または移植直後～9日/1	移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	1kg	砂壤土～埴土	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均一に散布する。	1.ダイムロン、ピラクロニル、プロモブチド、ペンシルフロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回、2回、2回以内とする。 2.ビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、極端な浅植、軟弱苗では使用しない。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>イネキング1キロ粒剤クサバルカン1キロ粒剤</b> ピラクロニル 2.0% ピラゾレート 10.0% ベンゾピシクロン 2.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナ、オモダカに効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理(湛水散布)	移植時(田植同時散布)または移植直後～9日/1	移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	1kg	砂壤土～埴土	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均一に散布する。	1.ピラクロニル、ピラゾレート、ベンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回以内とする。 2.ビエ2.5葉期、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ2葉期、(クログワイ、オモダカ)は発生前～発生始、ヒルムシロ発生期、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期/回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農薬使用基準				
(ウ)初・中期一発処理剤	<b>イネキングフロアブル</b> ピラクロニル 3.6% ピラゾレート 20.0% ベンゾビシクロン 4.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。S U剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナに効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～9日/1	移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	500ml	砂壤土～埴土	湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。	1.ピラクロニル、ピラゾレート、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ2葉期、ヒルムシロ発生期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>イネキングジャンボ</b> クサバルカンジャンボ ピラクロニル 4.0% ピラゾレート 20.0% ベンゾビシクロン 4.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。S U剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナ、オモダカに効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理 (湛水散布)	移植後1日～9日/1	移植後1日～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	小包装10個(500g)	砂壤土～埴土	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.ピラクロニル、ピラゾレート、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ2葉期、ヒルムシロ発生期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ウィナー1キロ粒剤</b> イブフェンカルバゾン 2.5% プロモプチド 9.0% ベンズルフロンメチル 0.51%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。S U剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(クログワイ)、(オモダカ)、(ヒルムシロ)、(セリ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布)	移植時(田植同時散布)または移植直後～9日/1	移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	1kg	砂壤土～埴土	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均等に散布する。	1.イブフェンカルバゾン、プロモプチド、ベンズルフロンメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期、オモダカ、クログワイ発生初期、ヒルムシロ発生期、刈再生前～再生初期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、極端な浅植、軟弱苗では使用しない。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ウィナーLフロアブル</b> イブフェンカルバゾン 5.0% プロモプチド 18.0% ベンズルフロンメチル 1.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。S U剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(クログワイ)、(オモダカ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理 (原液湛水散布)	移植直後～9日/1	移植時田植同時散布または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	500ml	砂壤土～埴土	湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。	1.イブフェンカルバゾン、プロモプチド、ベンズルフロンメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期、オモダカ、クログワイ発生初期、ヒルムシロ発生期、刈再生前～再生初期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ウィナーLジャンボ</b> イブフェンカルバゾン 5.0% プロモプチド 18.0% ベンズルフロンメチル 1.02%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。S U剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(オモダカ)、(クログワイ)、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～9日/1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	小包装10個(500g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.イブフェンカルバゾン、プロモプチド、ベンズルフロンメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期、ヒルムシロ発生期、刈再生前～再生初期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ウィニングランジャンボ</b> イブフェンカルバゾン 5.0% プロモプチド 18.0% ベンズルフロンメチル 1.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。S U剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、シズイ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	小包装10個(500g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.イブフェンカルバゾン、プロモプチド、ベンズルフロンメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 3.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ウィニングラン1キロ粒剤</b> イブフェンカルバゾン 2.5% プロモプチド 9.0% ベンズルフロンメチル 0.75%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。S U剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、シズイ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布)	移植時(田植同時)または移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	移植時(田植同時)または移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均等に散布する。	1.イブフェンカルバゾン、プロモプチド、ベンズルフロンメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 3.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 4.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>エンペラー1キロ粒剤</b> ピラクロニル 2.0% ピリミノバックメチル 0.75% フェンキントリアオン 3.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。S U剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、オモダカ、ヘラオモダカ、クログワイ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布)	移植時(田植同時)または移植直後～11日/1	移植時または移植直後～ノビエ3葉期(ただし、移植後30日まで)	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均等に散布する。	1.ピラクロニル、ピリミノバックメチル、フェンキントリアオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ・ホタルイ・ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、クログワイは発生前、オモダカ・コナギは発生盛期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生盛期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>エンペラージャンボ</b> ピラクロニル 8.0% ピリミノバックメチル 3.0% フェンキントリアオン 12.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。S U剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、オモダカ、ヘラオモダカ、クログワイ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～11日/1	移植直後～ノビエ3葉期(ただし、移植後30日まで)	小包装10個(250g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.ピラクロニル、ピリミノバックメチル、フェンキントリアオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ・ホタルイ・ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、オモダカ・クログワイ・コナギは発生初期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期/回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農薬使用基準				
ウ 初 ・ 中 期 一 発 処 理 剤	エンペラー豆つぶ250 ピラクロニル 8.0% ピリミノバックメチル 13.0% フェンキントリオン 12.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、オモダカ、ヘラオモダカ、クログワイ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布、湛水周縁散布、水口施用または無人航空機による散布)	移植直後～11日/1	移植直後～ノビエ3葉期(ただし、移植後75日まで)	250g	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	湛水散布の場合は田面に散布、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に帯状に散布する。水口施用の場合はあらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で入水時に本剤を水口施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意する。	1.ビラクロニル、ピリミノバックメチル、フェンキントリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ・ホタルイ・ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、ヘラオモダカ・クログワイ・コウキカガは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.湛水散布、湛水周縁散布はやや深めの湛水(水深5～6cm)にして水の出入りを止める。 4.散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6.藻類・表層はく離などの水田浮遊物が多い場合は拡散が不十分になるおそれがあるので、周縁散布または水口施用を避け、本田内で水田全面に散布する。 7.水口に対して風速5m/sを超える向かい風が吹いている場合は拡散が不十分になるおそれがあるため、水口施用を避ける。
	テッシン豆つぶ250 ピラクロニル 8.0% フェンキントリオン 12.0% ペンシルフロロメチル 3.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	ウリカワ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、ナガエツルゲイトウ、一年生雑草、多年生広葉雑草、アオミドロ・藻類による表層剥離	土壌処理 (湛水散布、湛水周縁散布、水口施用または無人航空機による散布)	移植直後～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)/1	移植直後～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)/1	250g	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	湛水散布の場合は田面に散布、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に帯状に散布する。水口施用の場合はあらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で入水時に本剤を水口施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意する。	1.ビラクロニル、フェンキントリオン、ペンシルフロロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ホタルイは3葉期まで、ウリカワは2葉期まで、ヘラオモダカは1葉期まで、クログワイ、コウキカガは発生始期まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、シズイは草丈3cmまで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、ナガエツルゲイトウは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.湛水散布、湛水周縁散布はやや深めの湛水(水深5～6cm)にして水の出入りを止める。 4.散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6.藻類・表層はく離などの水田浮遊物が多い場合は拡散が不十分になるおそれがあるので、周縁散布または水口施用を避け、本田内で水田全面に散布する。 7.水口に対して風速5m/sを超える向かい風が吹いている場合は拡散が不十分になるおそれがあるため、水口施用を避ける。
	カチボシ1キロ粒剤51 イブフェンカルバゾン 2.5% テフリルトリオン 2.0% ペンシルフロロメチル 0.51%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、オモダカ、クログワイ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植時(田植同時)または移植直後～9日/1	移植時または移植直後～ノビエ2.5葉期	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均一に散布する。	1.イブフェンカルバゾン、テフリルトリオン、ペンシルフロロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期まで、ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは2葉期まで、クログワイ・オモダカは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	カチボシフロアブル イブフェンカルバゾン 5.0% テフリルトリオン 4.0% ペンシルフロロメチル 1%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (原液湛水散布)	移植直後～9日/1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで)	500ml	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。	1.イブフェンカルバゾン、テフリルトリオン、ペンシルフロロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期まで、ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは2葉期まで、クログワイ・オモダカは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。
	カチボシジャンボ イブフェンカルバゾン 8.3% テフリルトリオン 6.7% ペンシルフロロメチル 1.7%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～9日/1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで)/1	小包装10個(300g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.イブフェンカルバゾン、テフリルトリオン、ペンシルフロロメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期まで、ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは2葉期まで、クログワイ・オモダカは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	ワザアリジャンボ イブフェンカルバゾン 8.3% テフリルトリオン 10.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～ノビエ3葉期(但し、移植後30日まで)/1	移植直後～ノビエ3葉期(但し、移植後30日まで)/1	小包装10個(300g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.イブフェンカルバゾン、テフリルトリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ3葉期まで、ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、クログワイ・オモダカは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	キクトモ1キロ粒剤 カフエンストロール 3.0% ジメタメトリン 0.60% ダイムロン 9.0% ベンゾビシクロン 3.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナにも効果を示す。 藻類に効果が高い。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、アオミドロ、藻類、表層はく離	土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布)	移植時(田植同時散布)または移植直後～9日/1	移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均一に散布する。	1.カフエンストロール、ジメタメトリン、ダイムロン、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、3回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	キマリテ1キロ粒剤 イブフェンカルバゾン 2.5% テフリルトリオン 3.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ	土壌処理 (田植同時散布機で施用、湛水散布)	移植時(田植同時散布)または移植直後～11日/1	移植時または移植直後～ノビエ3葉期(ただし、収穫30日前まで)	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均一に散布する。	1.イブフェンカルバゾン、テフリルトリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリは3葉期まで、クログワイ・オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農薬使用基準				
（ウ） 初・ 中期一 発処 理剤	<b>カラット1キロ粒剤</b> イマゾスルフロン 0.9% テフリルトリオン 2.0% ピラクロニル 2.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～ビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで) / 1	移植直後～ビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで) / 1	1 kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは無人航空機により散布する。	1. イマゾスルフロン、テフリルトリオン、ピラクロニルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ビエ2.5葉期まで、ホタルイ、ウリカワは2葉期まで、ヘラオモダカは4葉期まで、ミズガヤツリは15cmまで、クログワイ・オモダカは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。
	<b>カラットジャンボ</b> イマゾスルフロン 2.25% テフリルトリオン 5.0% ピラクロニル 5.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～ビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで) / 1	移植直後～ビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで) / 1	小包装10個 (400g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1. イマゾスルフロン、テフリルトリオン、ピラクロニルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ビエ2.5葉期まで、ホタルイ、ヘラオモダカは2葉期まで、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは15cmまで、クログワイ・オモダカは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>カラットフロアブル</b> イマゾスルフロン 1.7% テフリルトリオン 3.8% ピラクロニル 3.8%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～ビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで) / 1	移植直後～ビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで) / 1	500ml	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは無人航空機により散布する。	1. イマゾスルフロン、テフリルトリオン、ピラクロニルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ビエ2.5葉期まで、ホタルイは2葉期まで、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは15cmまで、クログワイ・オモダカは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。
	<b>銀河ジャンボ</b> ダイムロン 25.0% ピラクロニル 5.0% メタゾスルフロン 2.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植後5～11日 / 1	移植後5日～ノビエ3葉期まで(ただし、収穫60日前まで)	小包装10個 (400g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1. ダイムロン、ピラクロニル、メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数は3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回、2回以内とする。 2. ビエ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、オモダカは矢尻葉3葉期まで、クログワイ・コウキヤガラは草丈30cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>クサトッタ1キロ粒剤</b> (スラッシュヤ1キロ粒剤) ジメタトリン 0.60% ビラゾレート 12.0% ブレチアコール 4.5% プロモフチド 6.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (田植同時散布機で施用、湛水散布)	移植時または移植直後～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで) / 1	移植時または移植直後～ノビエ2葉期(ただし移植後30日まで) / 1	1 kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均等に散布する。	1. ジメタトリン、ビラゾレート、ブレチアコール、プロモフチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリは2葉期まで、ヘラオモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前に使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>コメット1キロ粒剤</b> テフリルトリオン 2.0% ピラクロニル 2.0% メタゾスルフロン 0.60%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)、(セリ)	土壌処理 (湛水散布)	移植後5～9日 / 1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	1 kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均等に散布する。	1. テフリルトリオン、ピラクロニル、メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期まで、オモダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>サラブレッドG01キロ粒剤</b> イマゾスルフロン 0.9% キキシクロメホン 0.6% ピラクロニル 1.0% プロモフチド 9.0%	非ホルモン型の吸収移行性・除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (田植同時散布機で施用、湛水散布)	移植時または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	移植時または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	1 kg	埴土～埴土 (減水深2cm / 日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均等に散布する。	1. イマゾスルフロン、キキシクロメホン、ピラクロニル、プロモフチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは5葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカ・コウキヤガラは発生始期まで、クログワイは発生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前に使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>サラブレッドG0フロアブル</b> イマゾスルフロン 1.7% キキシクロメホン 1.1% ピラクロニル 1.9% プロモフチド 16.7%	非ホルモン型の吸収移行性・除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (田植同時散布機で施用、原液湛水散布)	移植時または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	移植時または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	500ml	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。	1. イマゾスルフロン、キキシクロメホン、ピラクロニル、プロモフチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは5葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカ・コウキヤガラは発生始期まで、クログワイは発生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前に使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>サラブレッドG0ジャンボ</b> イマゾスルフロン 2.25% キキシクロメホン 1.5% ピラクロニル 2.5% プロモフチド 22.5%	非ホルモン型の吸収移行性・除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	小包装10個 (400g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1. イマゾスルフロン、キキシクロメホン、ピラクロニル、プロモフチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、オモダカ・コウキヤガラは発生始期まで、クログワイは発生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前に使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、極端な深水、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期/回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農薬使用基準				
(ウ) 初・ 中期 一発 処理 剤	サラブレッドG0400FG イマゾスルフロン 2.25% ネキサジクロメホン 1.5% ピラクロニル 2.5% プロモフチド 22.5%	非ホルモン型の吸収移行性・除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布、 湛水周縁散布)	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	400g	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	湛水して畦畔に沿って一周し、数回に分けて手まきで散布する。	1.イマゾスルフロン、ネキサジクロメホン、ピラクロニル、プロモフチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、オモダカ・コウキヤガラは発生始期まで、クログワイは発生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前に使用する。 3.水の出入りを止め5～6cmの湛水状態に保って散布する(最も浅いところでも4～5cm以上の水深にする)。 4.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、極端な深水、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6.風がある場合は、風下からの散布は行わないようにする。 7.藻類や稲ワラ等の吹寄せの上に散布しない。
	サラブレッドRXフロアブル イマゾスルフロン 1.7% オキサジクロメホン 1.2% クロメブロップ 6.6% ダイムロン 9.5%	非ホルモン型・ホルモン型混合の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性アゼナ、ホタルイにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(クログワイ)、(セリ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理 (原液湛水散布)	移植後5～9日 / 1	移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	500ml	砂壤土～埴土	湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。	1.イマゾスルフロン、ネキサジクロメホン、クロメブロップ、ダイムロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、2回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。
	ジェイフレンド1キロ粒剤 オキサジクロメホン 0.3% テフリルトリオン 3.0% ピラクロニル 2.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ	土壌処理 (湛水散布)	移植時(田植同時散布)または移植直後～11日 / 1	移植時～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで) / 2	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均等に散布する。	1.ネキサジクロメホン、テフリルトリオン、ピラクロニルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ・クログワイは発生前から発生始期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田では使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	ジェイフレンドジャンボ オキサジクロメホン 0.75% テフリルトリオン 7.5% ピラクロニル 5.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ	土壌処理 (湛水散布)	移植後5～11日 / 1	移植後5日～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで) / 1	小包装10個 (400g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.ネキサジクロメホン、テフリルトリオン、ピラクロニルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ・クログワイは発生前から発生始期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田では使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	シェリフ1キロ粒剤 イマゾスルフロン 0.90% シハロホップブチル 1.8% ジメタメトリン 0.60% ブレチラクロール 4.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性アゼナにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、藻類、表層はく離、(ヒルムシロ)、(クログワイ)、(オモダカ)、(セリ)	土壌処理 (湛水散布)	移植後7～11日 / 1	移植後5日～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで) / 1	1kg	埴土～埴土 早期: (減水深1cm / 日以下) 普通期: (減水深2cm / 日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均等に散布する。	1.イマゾスルフロン、シハロホップブチル、ジメタメトリン、ブレチラクロールを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、3回、2回、2回以内とする。 2.ノビエ3葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	シリウスエグザ1キロ粒剤 オキサジクロメホン 0.40% ピラクロニル 2.0% ピラソスルフロンエチル 0.30% ベンゾビシクロン 2.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)、(セリ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布)	移植時(田植同時散布)または移植直後～9日 / 1	移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均等に散布する。	1.ネキサジクロメホン、ピラクロニル、ピラソスルフロンエチル、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、1回、3回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期まで、オモダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	シリウスエグザジャンボ オキサジクロメホン 1.4% ピラクロニル 6.6% ピラソスルフロンエチル 1.0% ベンゾビシクロン 6.7%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)、(セリ)	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～9日 / 1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	小包装10個 (300g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.ネキサジクロメホン、ピラクロニル、ピラソスルフロンエチル、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、1回、3回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期まで、オモダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	シロノックLジャンボ カフェンストロール 7.1% ダイムロン 14.3% ベンソスルフロンメチル 1.5% ベンゾビシクロン 5.7%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性ホタルイにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(クログワイ)、(オモダカ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理 (湛水散布)	移植後5～9日 / 1	移植後3日～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	小包装10個 (350g)	砂壤土～埴土	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.カフェンストロール、ダイムロン、ベンソスルフロンメチル、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回、3回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 5.カフェンストロールを含む剤は補植苗での葉害が著しいので、補植後5日はあける。
	ジェイソウルジャンボ シクロピリモレート 6.7% ピラソレート 13.3% フェントラザミド 6.7%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。ALS阻害剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、セリ、シズイ、藻類、表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植後1日～9日 / 1	移植後1日～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	小包装10個 (450g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま均等に投げ入れる。	1.シクロピリモレート、ピラソレート、フェントラザミドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、1回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ミズガヤツリは3葉期まで、ホタルイ・ウリカワは2葉期まで、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.ホタルイの多発生条件下では効果の劣る場合がある。 4.散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期/回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農業使用基準				
(ウ)初・中期一発処理剤	ジェイソウル1キロ粒剤 シクロピリモレート 3.0% ピラゾレート 6.0% フェントラザミド 3.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 ALS阻害剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、セリ、シズイ、藻類、表層はく離	土壌処理 (田植同時散布機で施用または湛水散布)	移植時(田植同時散布)または移植直後～9日/1	移植時～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	1kg	砂壤土～埴土(減水深2cm/日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均一に散布する。	1.シクロピリモレート、ピラゾレート、フェントラザミドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、1回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは2葉期まで、モダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.ホタルイの多発生条件下では効果の劣る場合がある。 4.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	ジェイソウルフロアブル シクロピリモレート 5.5% ピラゾレート 11.0% フェントラザミド 4.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 ALS阻害剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、セリ、シズイ、藻類、表層はく離	土壌処理 (原液湛水散布)	移植直後～9日/1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	500ml	砂壤土～埴土(減水深2cm/日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。	1.シクロピリモレート、ピラゾレート、フェントラザミドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、1回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは3葉期まで、モダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.ホタルイの多発生条件下では効果の劣る場合がある。 4.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。
	ツルギフロアブル イプフェンカルバゾン 5.0% イマゾスルフロロン 1.8% ベンゾピシクロン 4.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、うりかわ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ	土壌処理 (原液湛水散布)	移植直後～9日/1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)	500ml	砂壤土～埴土(減水深2cm/日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。	1.イプフェンカルバゾン、イマゾスルフロロン、ベンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは2葉期まで、モダカ・クログワイは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、ウリカワは発生始期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。
	セイテンジャンボ オキサジクロメホン 2.4% ジメタメトリン 2.4% フェンキノトリオン 12.0% ベンスルフロロンメチル 3.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	ウリカワ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、一年生雑草アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで)	同左	小包装10個	砂壤土～埴土(減水深2cm/日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装の割合で均等に投げ入れる。	1.オキサジクロメホン、ジメタメトリン、フェンキノトリオン、ベンスルフロロンメチルを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ、ウリカワは2葉期、ヘラオモダカは1葉期、モダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.5～6cm湛水下で散布し、散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	セイテン1キロ粒剤 オキサジクロメホン 0.80% ジメタメトリン 0.60% フェンキノトリオン 3.0% ベンスルフロロンメチル 0.75%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	ウリカワ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、一年生雑草アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで)	同左	1kg	砂壤土～埴土(減水深2cm/日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均一に散布する。	1.オキサジクロメホン、ジメタメトリン、フェンキノトリオン、ベンスルフロロンメチルを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ、ウリカワは2葉期、ヘラオモダカは1葉期、モダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.5～6cm湛水下で散布し、散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	トップガンR豆つぶ250 ピリミノバックメチル 1.8% プロモブチド 36.0% ベンスルフロロンメチル 3.0% ペントキサゾン 8.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、オモダカ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、シズイ、セリ、藻類、表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～9日/1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	250g	砂壤土～埴土(減水深2cm/日未満)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.ピリミノバックメチル、プロモブチド、ベンスルフロロンメチル、ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは2葉期まで、モダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。
	トップガンR1キロ粒剤 ピリミノバックメチル 0.45% プロモブチド 9.0% ベンスルフロロンメチル 0.75% ペントキサゾン 2.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、オモダカ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、シズイ、セリ、藻類、表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～9日/1	移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで)/1	1kg	砂壤土～埴土(減水深2cm/日未満)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均一に散布する。	1.ピリミノバックメチル、プロモブチド、ベンスルフロロンメチル、ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは2葉期まで、モダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	トップガンRジャンボ ピリミノバックメチル 1.8% プロモブチド 36.0% ベンスルフロロンメチル 3.0% ペントキサゾン 8.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～9日/1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	小包装10個	砂壤土～埴土(減水深2cm/日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装の割合で均等に投げ入れる。	1.ピリミノバックメチル、プロモブチド、ベンスルフロロンメチル、ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは2葉期まで、モダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期/回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農業使用基準				
(ウ)初・中期一発処理剤	<b>ナギナタジャンボ</b> オキサジクロメホン 1.6% ピリミスルファン 2.2% ベンゾビシクロン 12.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。アシカキにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(オモダカ)、(クログワイ)、(コウキヤガラ)、(表層はく離)	土壌処理(湛水散布)	移植後3日～ノビエ2.5葉(ただし移植後30日まで) / 1	移植直後～ノビエ2.5葉(ただし移植後30日まで) / 1	小包装10個(250g)	砂壤土～埴土	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1. 枯サジクロメホン、ピリミスルファン、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ノビエ2.5葉期、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ2葉期、モダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期、ヒルムシロ発生期、セリ再生始期までに散布する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ナギナタ豆つぶ</b> オキサジクロメホン 1.6% ピリミスルファン 2.2% ベンゾビシクロン 12.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。アシカキにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(セリ)、(オモダカ)、(クログワイ)、(コウキヤガラ)、(表層はく離)	土壌処理(湛水散布)	移植後3日～9日 / 1	移植後3日～ノビエ2.5葉(ただし移植後30日まで) / 1	250g	砂壤土～埴土(減水深2cm / 日未満)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. 枯サジクロメホン、ピリミスルファン、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、3回以内とする。 2. ノビエ2.5葉期、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、モダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前までに散布する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。
	<b>パッチリジャンボ</b> イマゾスルフロン 2.25% ピラクロニル 5.0% プロモブチド 22.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(オモダカ)、(クログワイ)、(ヒルムシロ)、(セリ)	土壌処理(湛水散布)	移植直後～9日 / 1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	小包装10個(400g)	砂壤土～埴土(減水深2cm / 日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1. イマゾスルフロン、ピラクロニル、プロモブチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ノビエ2.5葉期、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ2葉期、モダカ・クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、極端な深水、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>パッチリLXジャンボ</b> イマゾスルフロン 2.25% オキサジクロメホン 0.75% ピラクロニル 5.0% プロモブチド 22.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ	土壌処理(湛水散布)	移植直後～9日 / 1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで) / 1	小包装10個(400g)	砂壤土～埴土(減水深2cm / 日未満)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1. イマゾスルフロン、枯サジクロメホン、ピラクロニル、プロモブチドを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ノビエ・ミズガヤツリ・ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期から再生始期まで、モダカ・クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深5～6cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、極端な深水、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>フルパワーMXジャンボ</b> センイチMXジャンボ 4% フルセトスルフロン 0.4% メソトリオン 1.8%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ウリカワ、ミズガヤツリ	土壌処理(湛水散布)	移植後1日～ノビエ3葉期但し収穫60日前まで / 1	移植後1日～ノビエ3.5葉期但し収穫60日前まで / 1	小包装10個(500g)	砂壤土～埴土(減水深2cm / 日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1. ピラクロニル、フルセトスルフロン、メソトリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ノビエ・ミズガヤツリ・ウリカワは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、モダカは発生始期まで、クログワイ・コウキヤガラは草丈10cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、アオイトロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ベッカクジャンボ</b> ピリミスルファン 2.0% フェノキサスルホン 6.0% フェンキノトリオン 12.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、多年生広葉雑草	土壌処理(湛水散布)	移植後3日～11日 / 1	移植3日後～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで)	小包装10個(250g)	砂壤土～埴土(減水深2cm / 日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1. ピリミスルファン、フェノキサスルホン、フェンキノトリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ノビエ・ミズガヤツリ・ウリカワは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、モダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、キョウカス・メヒヒは再生茎2葉期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時は葉害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>ベッカク豆つぶ250</b> ピリミスルファン 2.0% フェノキサスルホン 6.0% フェンキノトリオン 12.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、多年生広葉雑草	土壌処理(湛水散布)	移植後3日～11日 / 1	移植3日後～ノビエ3葉期(ただし移植後30日まで)	250g	砂壤土～埴土(減水深2cm / 日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. ピリミスルファン、フェノキサスルホン、フェンキノトリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ノビエ・ミズガヤツリ・ウリカワは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、モダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、キョウカス・メヒヒは再生茎2葉期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時は葉害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。
	<b>ホットコンピフロアブル</b> テニルクロール 4% ベンゾビシクロン 4%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ	土壌処理(原液湛水散布)	植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1.5葉期(ただし、移植後30日まで) / 2	植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1.5葉期(ただし、移植後30日まで) / 2	300ml	砂壤土～埴土(減水深2cm / 日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って原液のまま容器を振って散布する。	1. テニルクロール、ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、3回以内とする。 2. ノビエ1.5葉期、ホタルイ・ミズガヤツリ・ヒルムシロは発生始期までに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5. フロアブル剤の散布上の注意事項を参照。

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期/回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農業使用基準				
(ウ) 初・ 中期 一発 処理剤	<b>ラオウ1キロ粒剤</b> ダイムロン 6.0% フェノキサスルホン 1.5% フェンキノトリオン 2.5% ベンシルフロンメチル 0.75%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、オモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、セリ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～9日/1	移植時(田植同時散布)または移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは散粒機等で均一に散布する。	1.ダイムロン、フェノキサスルホン、フェンキノトリオン、ベンシルフロンメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)、2回、2回、2回以内とする。 2.ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期まで、オモダカ・クログワイは発生始まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時、活着遅延を生じるような異常低温の時は葉害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い、植穴の戻りの悪い水田は使用を避ける。
	<b>ラオウジャンボ</b> ダイムロン 24.0% フェノキサスルホン 6.0% フェンキノトリオン 10.0% ベンシルフロンメチル 3.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、オモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、クログワイ、セリ、コウキヤガラ	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～9日/1	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	小包装10個 (250g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.ダイムロン、フェノキサスルホン、フェンキノトリオン、ベンシルフロンメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)、2回、2回、2回以内とする。 2.ノビエは2.5葉期、ホタルイ・ウリカワは2葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、オモダカ・クログワイは発生始まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時、活着遅延を生じるような異常低温の時は葉害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗、植穴の戻りの悪い水田が多い水田は使用を避ける。
	<b>ラオウフロアブル</b> ダイムロン 11.3% フェノキサスルホン 2.8% フェンキノトリオン 4.7% ベンシルフロンメチル 1.4%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、多年生広葉雑草	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)/1	移植直後～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)/1	500ml	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	移植時に田植同時散布機で施用または湛水して、手まきもしくは無人航空機により散布する。	1.ダイムロン、フェノキサスルホン、フェンキノトリオン、ベンシルフロンメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)、2回、2回、2回以内とする。 2.ノビエは2.5葉期、ホタルイ・ウリカワは2葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、オモダカ・クログワイ・コウキヤガラは発生始まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時、活着遅延を生じるような異常低温の時は葉害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗、植穴の戻りの悪い水田が多い水田は使用を避ける。
	<b>ルンパ楽粒</b> オキサジクロメホロン 2.4% プロモプロチド 36.0% フロルピラウキシンフェンベンジル 1.8%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ	土壌処理 (湛水散布)	移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし移植後30日まで)/1	同左	250g	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.オキサジクロメホロン、プロモプロチド、フロルピラウキシンフェンベンジルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ、2回、2回、3回以内とする。 2.ノビエは2.5葉期、ホタルイ・ウリカワは2葉期、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期、セリは再生期、オモダカは発生期までに使用する。 3.5～6cm湛水下で散布し、散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。
(エ) 中・ 後期 剤	<b>アトトリ1キロ粒剤</b> ピリミスルファン 0.75%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	ノビエ、多年生広葉雑草	茎葉兼土壌処理 (湛水散布)	移植後20日(イネ5葉期以降)～収穫45日前まで/1	移植後14日(イネ5葉期以降)～ノビエ4葉期(ただし収穫45日前まで)/1	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.ピリミスルファンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.オモダカは矢尻葉3葉期まで、クログワイ・コウキヤガラは草丈30cmまでに使用する。 3.散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 4.散布後に多量の降雨があると除草効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5.初期剤等土壌処理除草剤との体系で使用する。
	<b>アトトリ豆つぶ250</b> ピリミスルファン 3.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、ノビエ、ウリカワ、シズイ、セリ、ヒルムシロ、ミズガヤツリ	茎葉兼土壌処理 (湛水散布)	移植後14日(イネ5葉期以降)～ノビエ4葉期(ただし収穫45日前まで)/1	移植後14日(イネ5葉期以降)～ノビエ4葉期(ただし収穫45日前まで)/1	250g	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.ピリミスルファンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.ノビエ4葉期まで、ミズガヤツリは7葉期まで、オモダカは矢尻葉3葉期まで、クログワイ・コウキヤガラは草丈30cmまでに使用する。 3.散布後3～4日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 4.散布後に多量の降雨があると除草効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6.初期剤等土壌処理除草剤との体系で使用する。
	<b>ウィードコア1キロ粒剤</b> フロルピラウキシンフェンベンジル 0.4% ベノキサスラム 0.5% ペンソピシクロン 2.0%	ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、キシウスズメノヒエ、多年生広葉雑草	茎葉兼土壌処理 (湛水散布)	移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.フロルピラウキシンフェン、ベノキサスラム、ペンソピシクロンを含む農薬の総使用回数は3回、2回、3回以内とする。 2.散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 3.散布後に多量の降雨があると除草効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 4.初期剤等土壌処理除草剤との体系で使用する。
	<b>ウィードコアジャンボSD</b> フロルピラウキシンフェンベンジル 2.0% ベノキサスラム 2.5% ペンソピシクロン 10.0%	ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ	土壌処理 (湛水散布)	移植後10日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで)/2	同左	小包装10個	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.フロルピラウキシンフェン、ベノキサスラム、ペンソピシクロンを含む農薬の総使用回数は3回、2回、3回以内とする。 2.ホタルイは4葉期、マツバイは発生期、ミズガヤツリは草丈25cm、ウリカワは3葉期、ヒルムシロは発生盛期、セリは再生期までに使用する。 3.散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。
	<b>ウィードコア200SD粒剤</b> フロルピラウキシンフェンベンジル 2.0% ベノキサスラム 2.5% ペンソピシクロン 10.0%	ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリ	土壌処理 (湛水散布)	移植後10日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで)/2	同左	200g	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.フロルピラウキシンフェン、ベノキサスラム、ペンソピシクロンを含む農薬の総使用回数は3回、2回、3回以内とする。 2.ホタルイは4葉期、マツバイは発生期、ミズガヤツリは草丈25cm、ウリカワは3葉期、ヒルムシロは発生盛期、セリは再生期までに使用する。 3.散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期/回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農薬使用基準				
(エ) 中・ 後期 剤	クリンチャーバスメ液剤 シハロホップブチル 3.0% ベンタゾンナトリウム塩 20.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、オモダカ、クログワイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、キシウスズメノヒエ、(セリ)	茎葉処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布)	移植後20日～ノビエ4葉期まで(ただし収穫50日前まで) / 2	移植後15日～ノビエ5葉期まで(ただし収穫50日前まで) / 2	1000ml	砂壤土～埴土 (減水深1.5cm/日以下)	落水またはごく浅く湛水した状態で、10a当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1.シロホップブチル、ベンタゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回、2回以内とする。 2.初期または一発処理剤との体系で使用する。 3.ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ発生盛期～増殖中期、モダカ草丈15cm以下、クログワイ草丈20cm以下、畦畔から侵入するキシウスズメノヒエはふく茎1m以内まで使用する。 4.落水状態で散布し、3日間(浅水処理は5日間)は水の移動を行わない。 5.散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 6.高温時、軟弱苗、重複散布では薬害がでやすいので注意する。 7.展着剤は使用しない。
	ゲバード1キロ粒剤 ダイムロン 10.0% ピラクロニル 2.0% ベンゾピシクロン 2.0% メタゾスルフロン 1.2%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	一年生雑草、多年生広葉雑草	茎葉兼土壌処理 (湛水散布)	移植後14日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで) / 1	移植後14日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで) / 1	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.ダイムロン、ピラクロニル、ベンゾピシクロン、メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回、3回、2回以内とする。 2.ノビエ4葉期まで、ホタルイは花茎20cmまで、ウリカワ・ミズガヤツリは4葉期まで、モダカは矢尻葉3葉期まで、クログワイ・コウキヤガラは草丈30cmまでに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	ソニックブームSジャンボ サイラ(シクロピリモレート) 3.0% テフリルトリオン 4.0% シメトリン 3.0% ペノキスラム 1.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層はく離	茎葉処理 (湛水散布)	移植後14日(稲4葉期以降)～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで) / 1	同左	20個	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり20個の割合で均等に投げ入れる。	1.シクロピリモート、シメリン、テフリトリオン、ペノキスラムを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ホタルイは草丈15cm、ヘラオモダカ、ウリカワは5葉期、ミズガヤツリは草丈25cm、クログワイは草丈20cm、モダカは矢尻葉4葉期、ヒルムシロは発生盛期、シズイは草丈20cm、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生初期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。
	ツイゲキ豆つぶ250 シメトリン 12.0% ピリミスルフアン 3.0% フェンキノトリオン 10.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	ウリカワ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、一年生雑草、アオミドロ・藻類による表層はく離	茎葉処理 (湛水散布)	移植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期まで(ただし収穫60日前まで) / 1	移植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期まで(ただし収穫60日前まで) / 1	250g	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.シメリン、ピリミスルフアン、フェンキトリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ4葉期まで、ウリカワは5葉期まで、ホタルイ・ミズガヤツリは草丈20cmまで、クログワイ・コウキヤガラは草丈30cmまで、モダカは矢尻葉4葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時は薬害の発生の恐れがあるので使用を避ける。 5.砂質土壌、漏水田、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 6.散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下する恐れがあるので使用を避ける。
	ツイゲキ1キロ粒剤 シメトリン 3.0% ピリミスルフアン 0.75% フェンキノトリオン 2.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	アオミドロ、藻類による表層はく離、一年生雑草、多年生雑草	茎葉処理 (湛水散布)	移植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期まで(ただし収穫60日前まで) / 1	移植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期まで(ただし収穫60日前まで) / 1	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.シメリン、ピリミスルフアン、フェンキトリオンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ノビエ4葉期まで、ホタルイは草丈20cmまで、ミズガヤツリ・ウリカワは5葉期まで、クログワイ・コウキヤガラは草丈30cmまで、モダカは矢尻葉4葉期までに使用する。 3.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 4.砂質土壌、漏水田、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。 5.散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下する恐れがあるので使用を避ける。
	ツインスタージャンボ ダイムロン 25.0% メタゾスルフロン 2.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(クログワイ)、セリ、(コウキヤガラ)	茎葉処理 (湛水散布)	移植後15日～30日(ノビエ3葉期まで)(ただし収穫60日前まで) / 1	移植後5日～ノビエ3葉期(ただし、収穫60日前まで) / 1	小包装10個(400g)	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.ダイムロン、メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2.ホタルイ3葉期、ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期、ヒルムシロ発生期、セリ再生前～始までに使用する。 3.散布後3～5日間は3～5cmの湛水を保ち、落水はしない。 4.散布時に藻類・表層剥離などの浮遊物が多いと部分的な薬害や効果不足を生じることがある。
	トドメMF1キロ粒剤 メタミホップ 1.35%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	ノビエ	茎葉処理 (湛水散布)	移植14日～ノビエ5葉期まで(ただし、収穫50日前まで) / 3	移植14日～ノビエ5葉期まで(ただし、収穫50日前まで) / 3	1kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.メタミホップを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2.ノビエ5葉期までに使用する。 3.広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在するほ場ではそれらに有効な剤と組み合わせ使用すること。 4.散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 5.砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植や深植した水田は使用を避ける。 6.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	バサグラン粒剤 ベンタゾンナトリウム塩 11.0%	非ホルモン型移行性の選択殺草性を有する除草剤で土壌中での残効期間は短い。	水田一年生雑草(イネ科を除く)及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ、クログワイ、シズイ	茎葉兼土壌処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布)	移植後20～30日(ただし収穫60日前まで) / 1	移植後15～55日(ただし収穫60日前まで) / 1	3～4kg	砂壤土～埴土 (減水深1.5cm/日以下)	落水またはごく浅く湛水して手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.ベンタゾンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.落水直後処理とし、散布後3日間(浅水処理は5日間)は入水しない。 3.散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 4.ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ発生盛期～増殖中期、モダカ発生盛期～発生揃期、クログワイ草丈15cm以下まで使用する。 5.クログワイ多発田では、クログワイに有効な前処理剤との体系処理をする。
	バサグラン液剤 ベンタゾンナトリウム塩 40.0%	非ホルモン型移行性の選択殺草性を有する除草剤で土壌中での残効期間は短い。	水田一年生雑草(イネ科を除く)及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、クサネム、	茎葉兼土壌処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布)	移植後20～30日(ただし収穫50日前まで) / 2	移植後15～55日(ただし収穫50日前まで) / 2	500～700ml	砂壤土～埴土 (減水深1.5cm/日以下)	落水またはごく浅く湛水した状態で、10a当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1.ベンタゾンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.クログワイは2回以内、その他の雑草は1回の使用とする。 3.落水して、雑草に十分かかるよう散布する。散布後3日間(浅水処理は5日間)は入水しない。 4.散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5.ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ発生盛期～増殖中期、モダカ発生盛期～発生揃期、クログワイ草丈15cm以下、コウキヤガラ増殖期までに使用する。 6.クログワイ多発田では、クログワイに有効な前処理剤との体系処理をする。 7.高温時、重複散布では薬害を生じやすいので注意する。 8.展着剤の加用は必要ない。

作物	農 薬 名	特 性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数		10 a 当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農業使用基準				
(エ) 中・後期剤	<b>モゲトン粒剤</b> ACN 9.0%	非ホルモン型接触性の除草剤で、土壌中の移動性は小さい。	ウキクサ類、藻類 (アオミドロ、アミミドロ)	茎葉処理 (湛水散布)	発生始～盛期 (ただし収穫45日前まで) / 3	同左	2～3 kg	砂壤土～埴土 (減水深3cm / 日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. ACNを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 散布は雑草が水没する程度の湛水状態でいい、散布後3～4日間は水の移動 (入水、落水等) をしない。 3. 対象雑草が発生してから散布する。 4. イネが水没するような深水中で使用すると薬害のおそれがある。 5. イチョウウキゴケ (イチョウモ) には効果が劣る。
			ヒルムシロ		発生始～増殖始 (ただし収穫45日前まで) / 3	同左	3～4 kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日以下)		
	<b>モゲトンジャンボ</b> ACN 9.0%	非ホルモン型接触性の除草剤で、土壌中の移動性は小さい。	ウキクサ類、表層はく離、(藻類)	茎葉処理 (湛水散布)	発生時 (ただし収穫45日前まで) / 3	同左	20個 (1kg)	埴土～埴土 (減水深2 cm / 日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って10 a 当たり20個の割合で均等に投げ入れる。	1. ACNを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 散布後3～4日間は水深5～6 cmを保つ。 3. 対象雑草の発生が進んでからだと拡散が不十分となり効果が劣る場合があるので、発生初期に散布する。 4. イネが水没するような深水中で使用すると薬害のおそれがある。
	<b>ワイドアタックSC</b> ベノキススラム 3.6%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	一年生雑草、多年生広葉雑草	茎葉兼土壌処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布)	移植後20日 (イネ5葉期以降)～ノビエ5葉期まで (ただし収穫30日前まで) / 2	同左	100ml	砂壤土～埴土	落水またはごく浅く湛水した状態で、10 a 当たり100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. ベノキススラムを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. ホルイ花茎抽出始、ウリカ・ミズガヤツリ6葉期、クサノコ草丈20cm、クログワイ・オモダカ草丈30 cmまでに使用する。 3. 散布後2日間 (浅水処理は3日間) は、水の移動は行わない。 4. 散布後1日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 薬害のおそれがあるので展着剤は添加しない。
	<b>ワイドショット1キロ粒剤</b> テフリルトリオン 3.0% ペノキススラム 0.5%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、シズイ、ヒルムシロ、セリ	茎葉兼土壌処理 (湛水散布)	移植後15日～ノビエ4葉期 (ただし収穫45日前まで) / 1	移植後15日～ノビエ4葉期 (ただし収穫45日前まで) / 1	1 kg	砂壤土～埴土 (減水深2cm / 日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. テフリロン、ベノキススラムを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ノビエ・ホルイ・ミズガヤツリ・ウリカは4葉期まで、オモダカは草丈30cm、クログワイは草丈20 cmまでに使用する。 3. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 4. 処理後数日、異常高温が続くことが予想される場合、砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な深植した水田は使用を避ける。 5. 本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの薬害が発生する恐れがあるため使用を避ける。 6. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>フォローアップ1キロ粒剤</b> <b>ワイドアタックD1キロ粒剤</b> ダイヤモンド 10.0% ベノキススラム 0.60%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ	茎葉兼土壌処理 (湛水散布)	移植後20日 (イネ4葉期以降)～ノビエ5葉期まで (ただし収穫60日前まで) / 1	移植後15日 (イネ4葉期以降)～ノビエ5葉期まで (ただし収穫60日前まで) / 1	1 kg	砂壤土～埴土	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. ダイロン、ベノキススラムを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回 (育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回以内とする。 2. ホルイ5葉期、ウリカ4葉期・ミズガヤツリ3葉期、クログワイ・オモダカ草丈30cm、ヒルムシロ生育期までに使用する。 3. 散布後3～5日間は3～5 cmの湛水を保ち、落水はしない。 4. 散布後に多量の降雨があると除草効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。
	<b>ロイヤント乳剤</b> 70%ピラキシフェンベンゾール 2.7%	ホルモン型の移行性除草剤である。	一年生広葉雑草及びノビエ、マツバイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、セリ	茎葉処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布)	移植後20日～ノビエ5葉期まで (ただし収穫45日前まで) / 1	移植後20日～ノビエ5葉期まで (ただし収穫45日前まで) / 1	200ml	砂壤土～埴土	落水またはごく浅く湛水した状態で、10 a 当たり25～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. 70%ピラキシフェンベンゾールを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. ミズガヤツリは草丈25cmまで、ウリカは6葉期まで、セリは増殖期まで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、アゼガヤは草丈30cmまでに使用する。 3. ホルイ、クログワイ、コウキガヤには効果が低いので、それら雑草が混在する場合はそれらに有効な剤と組み合わせて使用すること。 4. 土壌水分が少ないと効果が十分に発揮されないことがあるので、落水状態で散 5. 幼穂形成期以降の散布では、葉先の黄化や止葉の下垂が見られる場合があるが、収量への影響は認められていない。 6. 展着剤は添加しない。
	<b>2,4-Dアミン塩</b> 2,4-DPAジメチルアミン 49.5%	ホルモン型の吸収移行性除草剤で広葉雑草に対す効果を有する。	水田雑草 (イネ科を除く)	茎葉処理 (落水散布)	有効分げつ終止期～幼穂形成期前 (ただし収穫60日前まで) / 1	同左	80～120g	全 土 壌	落水状態で、10 a 当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. 2,4-DPAを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. アミン塩は散布1～2日前に落水して散布し、散布後2～3日おいて入水する。 3. 粒状水中2,4-Dは散布時に雑草が水面下にかくれるまで入水し、散布後2昼夜は田の水を動かさない。 4. 付近の作物にかからないよう注意する。 5. 使用機具の洗浄を十分に行う。 6. 散布直後に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。
	<b>MCPソーダ塩</b> MCPANaナトリウム塩 19.5%		水田一年生雑草 (イネ科を除く)、マツバイ、ウリカワ、オモダカ、セリ	茎葉処理 (落水散布)			160～240g		落水状態で、10 a 当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. MCPAを含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. 気温の低いときにも使用できる。 3. その他は2,4-Dに準ずる。
	<b>ワイドパワー粒剤</b> ベノキススラム 0.12% ペンタゾンナトリウム塩 11.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、SU剤抵抗性雑草にも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、(オモダカ)、(クログワイ)	茎葉処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布)	移植後20日～ノビエ5葉期 (ただし収穫60日前まで) / 1	同左	3kg	砂壤土～埴土	落水またはごく浅く湛水した状態で、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. ベノキススラム、ペンタゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2. ホルイ・ミズガヤツリ5葉期、ウリカ4葉期、ヒルムシロ生育期までに使用する。 3. 浅水状態での効果が安定するのでできるだけ浅水状態 (湛水深約1～2 cm) で散布し、少なくとも散布後2日間は水の移動は行わない。 4. 散布後3～7日間は2～5 cmの湛水を保ち、落水はしない。 5. 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。
	<b>ノミニー液剤</b> ビスピリバックナトリウム塩 2.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	クサネム、(イボグサ)	茎葉処理 (落水散布またはごく浅く湛水して散布)	移植後30日～クサネムの草丈40cm (イボグサの茎長30cm) (ただし収穫60日前まで) / 1	同左	50～100ml	砂壤土～埴土	落水またはごく浅く湛水した状態で、10 a 当たり100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. ビスピリバックナトリウム塩を含む農薬の総使用回数は1回とする。 2. クサネムの茎が硬くなる (木化) 以前に散布する。 3. 散布後3日間は水の移動は行わない。 4. 散布後6時間以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 幼穂形成期～乳熟期の水稻には出穂、粳の品質に影響するおそれがあるので使用しない。 6. 展着剤の加用は必要ない。

作物	農 薬 名	特 性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数		10 a 当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農業使用基準				
(オ)ヒエ処理剤	クリンチャー1キロ粒剤 シハロホップブチル 1.8%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、田面水を介して付着・吸収される。土壌中での残効は極めて短い。	ノビエ、キシユウスズメノヒエ、アゼガヤ	茎葉処理 (湛水散布)	移植後7日～ノビエ3葉期(ただし収穫30日前まで) / 2	移植後7日～ノビエ4葉期(ただし収穫30日前まで) / 2	1 kg	砂壤土～埴土 (減水深2 cm / 日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. シハロホップブチルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. キシユウスズメノヒエでは、水深5 cm(展開葉が水面に接する条件)で使用する。 3. アゼガヤ草丈20cmまでに使用する。 4. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。 5. 散布後3～4日間は湛水状態(3～5 cm)を保つ。
					移植後25日～ノビエ4葉期(ただし収穫30日前まで) / 2	移植後25日～ノビエ5葉期(ただし収穫30日前まで) / 2	1.5 kg			
	クリンチャージャンボ シハロホップブチル 1.8%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、田面水を介して付着・吸収される。土壌中での残効は極めて短い。	ノビエ、キシユウスズメノヒエ、アゼガヤ	茎葉処理 (湛水散布)	移植後15日～ノビエ3葉期(ただし収穫40日前まで) / 2	同左	小包装20個(1 kg)	砂壤土～埴土 (減水深2 cm / 日以下)	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10 a 当たり20個の割合で均等に投げ入れる。	1. シハロホップブチルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 5 cm程度の水深(展開葉が水面に接する条件)で使用する。 3. 散布後3～4日間は湛水状態(3～5 cm)を保つ。 4. ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。
					移植後25日～ノビエ4葉期(ただし収穫40日前まで) / 2	同左	小包装30個(1.5 kg)		湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10 a 当たり30個の割合で均等に投げ入れる。	
	クリンチャーEW シハロホップブチル 30.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。	ノビエ、キシユウスズメノヒエ、アゼガヤ	茎葉処理 (湛水散布または落水散布)	移植後20日～ノビエ5葉期(ただし収穫30日前まで) / 2	移植後20日～ノビエ6葉期(ただし収穫30日前まで) / 2	100ml	砂壤土～埴土 (減水深2 cm / 日以下)	湛水または落水状態で、10 a 当たり25～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1. シハロホップブチルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. キシユウスズメノヒエでは再生茎3～6葉で使用し、畦畔から侵入したものはほふく茎1 m以内の株全体に株元まで散布する。 3. アゼガヤ草丈60cmまでに使用する。 4. 使用の際は展着剤を加用する。(農業用展着剤の項を参照。)
	ヒエクリーン1キロ粒剤 ワンステージ1キロ粒剤 ピリミノバックメチル 1.2%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	ノビエ	茎葉処理 (湛水散布)	移植後15日～ノビエ4葉期(ただし収穫45日前まで) / 1	同左	1 kg	砂壤土～埴土 (減水深2 cm / 日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. ピリミノバックメチルを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 散布後3～4日間は湛水状態(3～5 cm)を保つ。 3. 1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	ヒエクリーン豆つぶ250 ピリミノバックメチル 4.8%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	ノビエ	茎葉処理 (湛水散布)	移植後15日～ノビエ3葉期(ただし収穫45日前まで) / 1	移植後15日～ノビエ4葉期(ただし収穫45日前まで) / 1	250g	砂壤土～埴土 (減水深2 cm / 日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1. ピリミノバックメチルを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2. 散布後3～4日間は水深3～5 cmを保つ。 3. 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、極端な浅植、浮き苗が多い水田は使用を避ける。
エ 乾田播栽培 (ア)入水前処理剤	クリンチャーEW シハロホップブチル 30.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。	水田一年生イネ科雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	播種後10日～ノビエ4葉期(ただし収穫30日前まで) / 2	播種後10日～ノビエ5葉期(ただし収穫30日前まで) / 2	100ml	砂壤土～埴土 (減水深2 cm / 日以下)	10 a 当たり25～100リットルの水に溶き、噴霧機等で雑草茎葉散布する。	1. シハロホップブチルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 使用の際は展着剤を加用する。(農業用展着剤の項を参照。)
	サターン乳剤 ベンチオカーブ 50.0%	非ホルモン型の接触兼移行性の除草剤で非選択性であるが、イネ<ノビエ・メヒシバに属間選択性が認められる。	水田一年生雑草及びマツバ	土壌処理 (乾田・落水状態で全面土壌散布)	播種直後～稲出芽前(入水15日前まで) / 1	同左	600～1200ml	砂壤土～埴土	乾田・落水状態で、10 a 当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧器等で散布する。	1. ベンチカーブを含む農薬の総使用回数は2回以内(ただし、入水前は1回以内、入水後は1回以内)とする。 2. 土壌が乾燥している時は散布水量を多めにするか、適度の湿り気をもたせて散布する。 3. 除草効果の高い使用時期は雑草発生初期までで、それ以降は効果が劣る。 4. 稲の出芽期には葉害が出やすいので使用を避ける。 5. タデ、タネツケナ、ミノスマなど広葉雑草優占圃場では使用を避ける。 6. 稲の根が露出していると葉害の恐れがあるので注意する。
	サターンバアロ乳剤 プロメトリン 5.0% ベンチオカーブ 50.0%	非ホルモン型の接触兼移行性の除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバ	土壌処理 (乾田・落水状態で全面土壌散布)	播種直後～稲出芽前(ノビエ1葉期まで) / 1	同左	600～800ml	埴土～埴土	乾田・落水状態で、10 a 当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧器等で散布する。	1. プロメトリン、ベンチカーブを含む農薬の総使用回数はそれぞれ1回、2回以内(ただし、入水前は1回以内、入水後は1回以内)とする。 2. 稲の出芽時は葉害が生じやすいので必ず出芽前に散布する。 3. 土壌が乾燥している時は散布水量を多めにするか、適度の湿り気をもたせて散布する。 4. 稲の根が露出していると葉害のおそれがあるので注意する。
	クリンチャーバスメ液剤 シハロホップブチル 3.0% ベンタゾンナトリウム塩 20.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。	ウリカワ、ミズガヤツリ	茎葉処理 (乾田・落水状態で雑草茎葉散布)	播種後10日～ノビエ4葉期(ただし収穫50日前まで) / 2	播種後10日～ノビエ5葉期(ただし収穫50日前まで) / 2	1000ml	砂壤土～埴土 (減水深1.5 cm / 日以下)	乾田・落水状態で、10 a 当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で雑草茎葉散布する。	1. シハロホップブチル、ベンタゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回、2回以内とする。 2. 高温では葉害を生じやすいので、多めの希釈水量とし、なるべく水稻にかからないように散布する。 3. ホルイ発生盛期～増殖中期までに使用する。 4. 散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5. 散布後3日間は入水しない。 6. 展着剤は使用しない。

作物	農薬名	特性	対象雑草名	処理法	使用時期／回数		10a当たり 使用薬量	本県での 適用土壌	散布方法	使用上の注意事項
					本県の使用基準	農薬使用基準				
(イ) 入水後 処理剤	<b>クリンチャーバスメ液剤</b> シハロホップブチル 3.0% ベンタゾンナトリウム塩 20.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ	茎葉処理 (乾田・落水状態で雑草茎葉散布)	播種後10日～ノビエ4葉期(ただし収穫50日前まで)／2	播種後10日～ノビエ5葉期(ただし収穫50日前まで)／2	1000ml	砂壤土～埴土 (減水深1.5cm/日以下)	乾田・落水状態で、10a当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で雑草茎葉散布する。	1.シハロホップブチル、ベンタゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回、2回以内とする。 2.高温では葉害を生じやすいので多めの希釈水量とし、なるべく水稲にかからないように散布する。 3.ホタルイ発生盛期～増殖中期までに使用する。 4.散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5.散布後3日間は水の移動を行わない。 6.展着剤は使用しない。
	<b>クリンチャーEW</b> シハロホップブチル 30.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。	水田一年生イネ科雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	播種後10日～ノビエ4葉期(ただし収穫30日前まで)／2	播種後10日～ノビエ5葉期(ただし収穫30日前まで)／2	100ml	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	10a当たり25～100リットルの水に溶き、噴霧機等で雑草茎葉散布する。	1.シハロホップブチルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2.使用の際は展着剤を加用する。(農業用展着剤の項を参照。)
	<b>ザークD1キロ粒剤51</b> ダイムロン 4.5% ベンスルフロンメチル 0.51% メフェナセット 10.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバイ、ミズガヤツリ	土壌処理 (湛水散布)	入水後5日～ノビエ2.5葉期(ただし収穫90日前まで)／1	稲1葉期～ノビエ2.5葉期(ただし収穫90日前まで)／1	1kg	壤土～埴土 (減水深1.5cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.ダイムロン、ベンスルフロンメチル、メフェナセットを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回(育苗箱散布は1回、本田では2回)、2回、2回以内とする。 2.ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
オ 湛水 直播 栽培	<b>キックバイ1キロ粒剤</b> イマズスルフロン 0.90% エトベンザニド 15.0% ダイムロン 15.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(セリ)、(ヒルムシロ)	土壌処理 (湛水散布)	播種後7日～ノビエ2葉期(ただし収穫90日前まで)／1	播種後5日～ノビエ2葉期(ただし収穫90日前まで)／1	1kg	壤土～埴土 早期： (減水深1cm/日以下) 普通期： (減水深2cm/日以下)	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.イマズスルフロン、エトベンザニド、ダイムロンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回、2回、2回以内とする。 2.ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日は水深3～5cmに保つ。 4.砂質土壌、漏水田、極端な浅植、軟弱苗では使用しない。5.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>クリンチャーEW</b> シハロホップブチル 30.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。	水田一年生イネ科雑草	茎葉処理 (雑草茎葉散布)	播種後10日～ノビエ4葉期まで(ただし収穫30日前まで)／2	播種後10日～ノビエ5葉期まで(ただし収穫30日前まで)／2	100ml	砂壤土～埴土 (減水深2cm/日以下)	10a当たり25～100リットルの水に溶き、噴霧機等で雑草茎葉散布する。	1.シハロホップブチルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2.使用の際は展着剤を加用する。(農業用展着剤の項を参照。)
	<b>クリンチャーバスメ液剤</b> シハロホップブチル 3.0% ベンタゾンナトリウム塩 20.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤で、土壌中での残効は極めて短い。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ	茎葉処理 (乾田・落水状態で雑草茎葉散布)	播種後10日～ノビエ4葉期(ただし収穫50日前まで)／2	播種後10日～ノビエ5葉期(ただし収穫50日前まで)／2	1000ml	砂壤土～埴土 (減水深1.5cm/日以下)	乾田・落水状態で、10a当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で雑草茎葉散布する。	1.シハロホップブチル、ベンタゾンを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回、2回以内とする。 2.高温では葉害を生じやすいので多めの希釈水量とし、なるべく水稲にかからないように散布する。 3.ホタルイ発生盛期～増殖中期までに使用する。 4.散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5.散布後3日間は水の移動を行わない。 6.展着剤は使用しない。
	<b>ザーベックスDX1キロ粒剤</b> シハロホップブチル 1.5% シメトリン 4.5% ベンプレセット 6.0% MCPBエチル 2.4%	非ホルモン型・ホルモン型混合の吸収移行性除草剤である。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(ヒルムシロ)、(藻類)、(表層はく離)	土壌処理 (湛水散布)	稲5葉期～ノビエ3.5葉期(ただし収穫60日前まで)(播種後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用)／1	同左	1kg	砂壤土～埴土	湛水して、手まきまたは散粒機等で均一に散布する。	1.シハロホップブチル、シメトリン、ベンプレセット、MCPBエチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ3回、2回、2回、2回以内とする。 2.ホタルイ・ウリカワ3葉期、ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.播種後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用。 4.散布後の異常高温が予想される場合は使用しない。 5.処理時の平均気温が15～16℃以下の場合には使用しない。 6.1キロ粒剤の散布上の注意事項を参照。
	<b>クリンチャーバスメ液剤 バサグラン液剤</b> ベンタゾンナトリウム塩 40.0%	非ホルモン型移行性の選択殺草性を有する除草剤で土壌中での残効期間は短い。	水田一年生雑草(イネ科を除く)及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ、クログワイ	茎葉兼土壌処理 (落水またはごく浅く湛水して散布)	播種後35～50日(ただし収穫50日前まで)／2	同左	1000ml 500～700ml	砂壤土～埴土 (減水深1.5cm/日以下)	乾田・落水状態で、10a落水またはごく浅く湛水した状態で、10a当たり70～100リットルの水に溶き、噴霧機等で散布する。	1.ベンタゾンを含む農薬の総使用回数は2回以内とする。 2.クログワイは2回以内、その他の雑草は1回の使用とする。 3.落水して、雑草に十分かかるよう散布する。散布後3日間(浅水処理は5日間)は入水しない。 4.散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、天候をよく見きわめてから散布する。 5.ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ発生盛期～増殖中期、オモダカ発生盛期～発生揃期、クログワイ草丈15cm以下までに使用する。 6.クログワイ多発田では、クログワイに有効な前処理剤との体系処理をする。 7.高温時、重複散布では葉害を生じやすいので注意する。 8.展着剤の加用は必要ない。
	<b>ミスターホームラン Lジャンボ</b> オキサジクロメホン 1.2% クロメブロップ 7.0% ダイムロン 9.0% ベンスルフロンメチル 1.02%	非ホルモン型・ホルモン型混合の吸収移行性除草剤である。 SU剤抵抗性アゼナ、ホタルイにも効果を示す。	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(セリ)	土壌処理 (湛水散布)	稲1葉期～ノビエ2.5葉期(ただし収穫90日前まで)／1	同左	小包装10個 (500g)	砂壤土～埴土	湛水して畦畔からまたは本田に入って小包装のまま10a当たり10個の割合で均等に投げ入れる。	1.オキサジクロメホン、クロメブロップ、ダイムロン、ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数はそれぞれ2回以内とする。 2.ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ2葉期までに使用する。 3.散布後3～4日は水深3～5cmに保つ。 4.ジャンボ剤の散布上の注意事項を参照。 5.稲の根が露出していると葉害のおそれがあるので注意する。